

寿会 60年のあゆみ



日本ビクター寿会

目 次

1. 刊行のご挨拶	1
2. 2018年～2022年年表（寿会55年のあゆみの2017年以降に追加）	2
3. 設立を振り返って	4
4. 過去の寿会ニュースより（野村社長のエピソード）	5
5. 寿会ニュースの変遷	6
6. 寿会ヒストリー（設立から現在まで主なエポック）	8
7. 歴代役員一覧（会長・副会長・常務理事）会員数推移グラフ	10
8. 組織図（令和4年8月現在）会員年齢分布グラフ	11
9. 寿会60年 主な年表	12

< 10～18：会社関連資料（日本ビクター存続として創立95周年で作成） >

10. 会社95年 主な年表	13
11. 日本ビクター95年 年表①（主な商品・技術開発など）	14
12. 日本ビクター95年 年表②（主な商品・技術開発など）	15
13. 業績向上に貢献した販促活動（宣伝・イベント・ロゴマーク）	16
14. 京浜地区事業所の今昔①②	18
15. その他地区事業所の今昔①②③	20
17. 国内営業拠点の今昔①②	23
18. ビクター行進曲・日本ビクター社歌・従業員行動綱領	25

<注>

・目次2は「寿会55年のあゆみ」に掲載の2017年（平成29）迄の年表に追加として2018年以降の年表を付け加えたもの。目次3～17は2022年度に発行の「寿会ニュース」N0.533（春号）～N0.536（冬号）迄の1年間にわたり掲載された『特集企画・寿会60周年記念』より保存版として計21ページを抜粋したもの。最後に行進曲、社歌、行動綱領など日本ビクターの思い出として追加しました。



「寿会60年のあゆみ」刊行のご挨拶

日本ビクター寿会
会長 市川 光男

日本ビクター寿会(OB会)は1962(昭和37)年の会社設立35周年記念行事の一環として設立され、2022(令和4)年11月22日に60周年を迎えました。

全国18支部の会員総計は約1000名。会員の平均年齢は80歳を超えました。

昭和2年に始まった日本ビクターは2011(平成23)年に(株)JVCケンウッド会長兼社長・河原春郎となり、2012(平成24)年に84年の歴史に幕を閉じました。

同年の2012(平成24)年、OB会の日本ビクター寿会(関会長)は支部長会を最高決議機関に会則改訂し、支部主導型運営(18支部)を決議しました。積立金を支部に配分。2013年には本部使用の寿会館を閉鎖。はや10年の歳月が過ぎました。

2013(平成25)年に始まった神奈川6支部主催「V9.13の集い」の会には、寿会岩崎会長の働きにより2016年、会社の今井専務が、2017年には辻社長、今井専務が参加、会社との交流の場が再開した。現在、寿会の年に一度の支部長会は会社の会議室を借用しています。

寿会は「会社を卒業した仲間がより楽しく、健康な人生を送る一助にする会です。本部では年4回発行の寿会ニュース(西郷編集長・理事)、OB会ホームページのOBネット、ズーム会議管理(前北理事の統括)、本部会計(桜井理事)、古林監事を通じて会員情報、長寿祝い、訃報、本部経理状況などを全支部長、全国メンバーにお届けしています。

今後も半世紀以上の歴史を持つ全国組織のOB会・日本ビクター寿会の理念を尊重し、会員相互が気楽に交流できる組織を目指していきたいと思えます。

「寿会55年のあゆみ」に新たに5年分(2018年～2022年)の情報を追加し、「寿会60年のあゆみ」を記録として残します。

2020年以降、全世界に蔓延したコロナ禍では対面活動がままならず対面の支部長会が開催できないため、2022年インターネットを活用したズーム支部長会議が始まりました。

対面・ネットなど色々な方法で会員相互の健康促進・触れ合いの場が拡大しますことを願っています。

さらに 浄財・寄付等により寿会本部費がゼロとなる運営を目標に活動を進めたい と考えます。

西暦 (和暦)	会長	会員数 (年度末)	主要行事	会則・会費の変更・寿会ニュース
2017 (平29)	岩崎 陽三	1216名 (2018年 3月末)	<ul style="list-style-type: none"> ・2/8 支部長会(神奈川県地区センター) ・9/13 第5回「なつかしきV9.13に集う会」 (ホテルプラム/横浜)～114名参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・支部長会決議 ～ 寿会の方向付け:現状維持、延命策を図る ・「寿会55年のあゆみ」(11/29)発刊、55周年記念総会開催せず ・本部費 @300円 ・寿会ニュース冊子代 @530円
2018 (平30)	岩崎 陽三	1151名 (2019年 3月末)	<ul style="list-style-type: none"> ・2/7 支部長会(JVCケンウッド本社会議室) ・9/13 第6回「なつかしきV9.13に集う会」 (ホテルプラム/横浜)～101名参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・支部長会決議 ～ (役員改選) 岩崎会長、渡辺常務理事(留任)、清水監事(退任)→勝俣監事(選任) ・新支部長 ～ 上信越(米本)、神奈川東(峰地)、神奈川中央(松嶋) ・本部費 @300円 ・寿会ニュース冊子代 @790円
2019 (平31)	岩崎 陽三	1099名 (2020年 3月末)	<ul style="list-style-type: none"> ・2/6 支部長会(JVCケンウッド本社会議室) ・5/29 トリオ・ケンウッド会(OB会)設立 ～会長 平林本明(元ケンウッド専務) ・9/13 第7回「なつかしきV9.13に集う会」 (ホテルプラム/横浜)～92名 	<ul style="list-style-type: none"> ・支部長会決議 ～ 全議案承認、 (報告)寿会ニュース編集長交代(渡辺→西郷) ・昭和33年同期会(ピクチャー33会)5月解散により、残金14000円寄付 ・本部費 @346円 ・寿会ニュース冊子代 @965円
2020 (令2)	市川 光男	1036名 (2021年 3月末)	<ul style="list-style-type: none"> ・2/5 支部長会(JVCケンウッド本社会議室) ・6月 コロナ禍により 「なつかしきV9.13に集う会」中止 	<ul style="list-style-type: none"> ・会則変更 ～ 役員に顧問を設ける ・支部長会決議 ～ 岩崎前会長、渡辺前常務理事 → 退任 新役員選任:市川会長、理事5名(西郷、前北、小高、佐々木、遠藤)、監事(古林)、顧問(岩崎) ・小高理事(会計)病気で退任 → 新たに櫻井理事(会計)就任 ・神奈川支部長交代 ～ 峰地 → 小関 ・北海道地区(会員3名)3月解散により、残金22454円寄付 ・寿会ニュース ～ 秋号(10月)より支部部持ち回り企画スタート ・本部費 @376円 ・寿会ニュース冊子代 @583円
2021 (令3)	市川 光男	993名 (2022年 3月末)	<ul style="list-style-type: none"> ・2/10 支部長会(コロナで対面中止) →リモート(メール)会議 ・3月～5月 ズーム支部長会議試行 ・6月 コロナ禍により 「なつかしきV9.13に集う会」中止 ・7/16 会社社長との懇談会(本社) 	<ul style="list-style-type: none"> ・支部長会議決議 ～ 議案回答書、1/30全支部メール提出完了 理事2名(佐々木、遠藤)退任 ・支部ズーム会議(3支部×6回=18支部)実施日程 3/10、3/20、4/10、4/20、5/10、5/19 ・静岡支部長交代 ～ 中澤 → 袋井 ・寿会ニュース印刷会社変更 ～ 6/4、コトブキ印刷(水戸市)決定 ・懇談会(13:00～15:00) ～ 本部役員出席 ・本部費 @150円 ・寿会ニュース冊子代 @433円
2022 (令4)	市川 光男	950名 (2023年 3月末) [見込]	<ul style="list-style-type: none"> ・2/9 初のズーム支部長会 ・7/21 会社社長との懇談会(本社) ・8/5 コロナ禍で「V9.13の集い」延期 ・11/15 「V9.13の集い」最終会議 ・11/21 一寿会60周年&会社創立95周年— 「V9.13の集い・顔合わせ元気かい(会)」 (ホテルプラム/横浜)～118名参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・支部長会決議 ～ 現役員5名再任、岩崎顧問退任 寿会60周年記念 (①寿会ニュース60周年特集 ②V9.13の集い+会社95周年記念)承認 ・困窮サークル無期休会で残金5万円本部へ寄付 ・寿会ニュース60周年特集スタート(春号より)～ 寿会の歩み、組織 及び会社95年歩み等 シリーズ掲載(年4回) ・神奈川6支部+本部ズーム会議 ～ 9/13→11/21(月)延期決定 ・合同ズーム会議 ～ 最終参加者数、座席表、進行内容等を確認 ・本部費 @160円 ・寿会ニュース冊子代 @513円
2023 (令5)	市川 光男		<ul style="list-style-type: none"> ・2/12 ズーム支部長会 (ズーム2回目) 	<ul style="list-style-type: none"> ・支部長会決議 ～ 予算(支出額、本部費、冊子代)全議案承認、 各支部の現状報告、活発な相互討議 ・本部費 @160円 ・寿会ニュース冊子代 @570円

本部 旅行・懇親会	支部活動	本部(京浜地区)サークル活動	主な社会・会社の動き
2009年以降 総会・旅行 ・懇親会は 開催せず	支部毎に総会・懇親会 ・サークル活動等開催	・囲碁 4/23春大会、10/22秋大会 ・ゴルフ 3/10、4/3、6/5、7/7、9/8、 11/10 ・ハイキング A、B、C各コースで開催 (1月～12月まで原則月2回実施、 詳細日程略、8月は各コース休会)	・代表取締役社長:辻 孝夫 ・社長、「ピクチャーブランドの復活」を宣言 ・「V9.13の集い」辻社長、今井専務出席 ・11月「音と映像の保存庫」より抜粋し、本社1階に展示
—	支部毎に総会・懇親会 ・サークル活動等開催	・囲碁 4/22春大会、11/4秋大会 ・ゴルフ 例年どおり開催 ※寿会ニュース掲載なく日程不明 ・ハイキング A、B、C各コースで開催 (1月～12月まで原則月2回実施、 詳細日程略、8月は各コース休会)	・代表取締役会長:辻 孝夫 ・CEO(社長):江口 祥一郎 ・「V9.13の集い」社会長、江口社長出席
—	支部毎に総会・懇親会 ・サークル活動等開催	・囲碁 5/12春大会、10/27秋大会 ・ゴルフ 3/8、5/24、10/11、11/8 ・ハイキング A、B、C各コースで開催 (1月～12月まで原則月2回実施、 詳細日程略、8月は各コース休会)	・代表取締役会長:辻 孝夫 ・CEO(社長):江口 祥一郎 ・「V9.13の集い」社会長、江口社長、今井副社長出席
—	・コロナ禍で書面総会	・囲碁 コロナ禍で活動休止 ・ゴルフ 3/6、11/13 ・ハイキング コロナ禍で各コース休止 ※1～3月実施、4月以降休止	・代表取締役会長:辻 孝夫 ・CEO(社長):江口 祥一郎 ・コロナ・アルファ株、全世界に広がる
—	・コロナ禍で書面総会	・囲碁 コロナ禍で活動休止 ・ゴルフ 3/12、5/14、7/9、10/8、11/12 ・ハイキング コロナ禍で各コース休止	・CEO(社長):江口 祥一郎 ・2021年6月 社会長、特別顧問に就任 ・コロナ・デルタ株、拡大 ・東京オリンピック2020(パラリンピック)開催(7～8月)
—	・コロナ禍で書面総会 (一部、対面で開催)	・囲碁 2022年3月、無期休会 ・ゴルフ 3/11、7/22、10/14、11/11 ・ハイキング コロナ禍で各コース休止	・コロナ・オミクロン株、新変異株が世界に広がる ・北京・冬季オリンピック開催(2022年2月)
—	・コロナ感染低下、 大半が対面総会予定	・ハイキング 1月以降、3年ぶりに再開	・コロナ感染、年明け以降徐々に下降

<特集> 寿会 60 周年記念 ① 設立振り返り

既にご案内のように、今年は寿会創立 60 周年（1962 年 11 月 22 日設立）に当たります。そこで寿会ニュースでは年 4 回（4 月、7 月、10 月、1 月）発行の紙面を通じて「60 周年記念特集（毎号 6 ページ基本）」を企画し、今号はスタートとして Part1 をお届けします。

記念すべき節目として記念誌発行や大きなイベントなどは財政的に厳しいですが、今までの記録・資料や寿会ニュースのバックナンバー等を参考に、特集の作成に取り組んでいきたいと思えます。

この企画により多くの先輩方や OB 諸氏の足跡をたどって歩みをまとめると共に、寿会とは直接関係ありませんがビクターの商品づくりや販売活動での忘れられない思い出、いつまでも残したいビクターのアイデンティティーなど、単に昔を懐かしむのではなく改めてビクターを見つめ直す機会にしたいとも考えています。今後、皆さんからの情報提供や投稿等のご協力をよろしくお願い致します。

■設立当初を振り返って

**会社を卒業した仲間が 健康な人生を送る一助とする会となるよう、
また会社の最大の支援団体となること** ～設立総会での百瀬会長の祝辞より

【設立の背景と経過】

昭和 37 年 10 月 6 日、創立記念行事の一環として定年退職者とその家族が招待され横浜工場見学会が行われました。

見学後は技術ビル 3 階ホールで会社側（百瀬会長、北野社長はじめ経営幹部）出席のもとに開かれた懇親会の席上、定年退職者の親睦団体をつくる事が出席者の総意によって決定されました。

1962(昭和 37)年 11 月 22 日 日本ビクター寿会が誕生

その後、準備期間を経て 11 月 22 日午後 6 時から新子安のビクター大和荘で設立総会が開催されました。当日は雨天ながら参加者 64 名及び会社側から高柳専務ほか関係役職の出席のもとで設立趣意書、会則、役員等全ての議案が可決され、めでたく日本ビクター寿会が誕生しました。

寿会設立趣意書

理想的社会とは、階級の如何を問わず人々が善意によって結合し、平和な営みを続けている状態を指すと思えます。人生は自己の生命を完うする人々の行程であります。これを社会的な視野にたつて考察すると、個人の生の営みは多くの同胞の愛情と協力によって支えられているのです。

日本ビクターという一つの大きな運命協同体の中で苦楽をともにし、定年制という同じ運命で会社を退職した者が相寄り相扶けて一つの共通の広場を持つことは非常に有意義なことだと信じます。

近時医学や薬剤や衛生思想の進歩に伴い平均寿命が著しく高められ、わが国においても平均寿命は男子 67 才、女子 72 才に延長され、同時に健康の維持増進、すなわち生命力の向上ということが注目されるにいたりました。

天与の生命を完全に完うするという事は、すべての人達の念願であります。私達をとりまく社会環境は必ずしもそれを許さず、自らの不摂生や健康にたいする無理解から、尊い生命を自ら傷つけている場合が非常に多いように思われます。私達は常に健康に留意するとともに、更に進んで健康の維持につとめ、その生命力を伸ばす必要を痛感いたします。そして稍々もすれば孤独感に陥ろうとする場合すらある運命にある者達が、ありし日を偲びながらともに懐旧談に花を咲かす機会を持つと同時に、古巣である日本ビクターの躍進を願いつつ、終生ビクターマンであるという誇りを持って愉快地に日常生活を送るため、ここに“日本ビクター寿会”を結成し、定年退職者のモデルケースとなって、聊か社会文化のために貢献しようとするものであります。

時恰も会社創立 35 周年の意義ある年に当たり、日本ビクター寿会が誕生したことは正にエポックメイキングに値するものと自画自賛し、全定年退職者各位が、奮って御参加あらんことを切望いたします。

昭和 37 年 11 月 22 日

日本ビクター寿会

「寿会ニュース」NO.137（昭50年12月）～NO.149（昭51年12月）で13回にわたる掲載記事「野村社長の思い出」（第2代寿会会長・西森源次郎 記）から一部を抜粋し、その要旨をまとめました。

「野村社長の思い出」～心を打つエピソード

●公私の別

～ 社長に着任早々、秘書に手紙を渡すと同時に、切手代を出されて「これはプライベートレターだから取っておいてくれ」と言われた。



<第7代社長>
野村 吉三郎
昭和28～37年

●社長就任の第一声

～ 「貧乏で上級学校へ行けず学費不要の海軍兵学校を選んだ。今は畑違いの社長になったが、財界には暗い自分はシャッポ（帽子）である」＝（私はトップではない、キャップだ！というジョーク）

●社内食堂

～ 時々社内食堂を利用していた社長はある日食堂に電話したら、会食用のオムレツがあるとのこと。それを見た社長は「社員と違うじゃないか」と言い、社員と同じメニューのおでんを食べた。

●服装

～ 社長は全く服装に構わない人で、社長就任時には小指大の穴が2つもあいた帽子を無造作にかぶり、服も上下色が違っていた。衣服はきちっと着ていればよい、礼を失しなれば可であった。

●松下幸之助相談役は同じ郷土出身（和歌山）

～ 松下相談役の野村社長に対する態度は郷土の大先輩、大官ということもあるが、全く父に対するが如く羨ましい情景だった。お互いに尽くし尽くされる間柄は奥ゆかしく麗しいものだった。

●松下相談役に尽くされた

～ 終戦直後、松下電器が財閥指定で事業停止となった時、元海軍大将・駐米大使だった社長はGHQ 外交部長のシーボルト氏を通じてGHQ 関係者と話し合い、松下電器は危機を脱することが出来た。

●天気予報

～ 昭和30年頃、台風襲来予報で築地本社は物々しい風雨対策をやっていたら社長が来て「今夜は台風来ないよ。海軍で気象観測の経験から、南方から九州へ上陸する台風は直角には曲がらない」

●教訓

～ お濠の白鳥たちが列を作って進んでいる光景を見て「あの鳥も同じだが、軍艦の隊列で先頭の旗艦が急に方向転換したら後方に付随の小艦は右往左往してしまう。何事も一度決めたことの急変は失敗のもとだ」と言われた。何事によらず、一度検討の上で決定したことは変更なく実行された。

●不思議な効果

～ 昭和32年頃、後の松野社長が入院し精神的に落ち込んでいる時、社長は「莫煩惱」と書いた色紙を持って見舞い「くよくよするな、人事を尽くし天命を待て」と伝え、不思議に体調が回復した。

●慎重周到

～ 社長は講演を依頼され出向かれる折、実際の講演の数倍の腹案と原稿が出来ている。それをチェックするため研究会メンバー、大使館などから最新情報を聴取、十分推敲の上で講演に臨まれた。

●読書の醍醐味

～ 社用を終えた午後など、ソファーに80キロの巨体を沈めて和洋の新聞、書籍に読み入っている姿は真剣で集中力には驚くほど。その読書量たるや社内随一だったと思われる。特に洋書にはアンダーライン、必要な個所のチェックマーク、さらに重要な場所にはダブルチェックが入っていた。

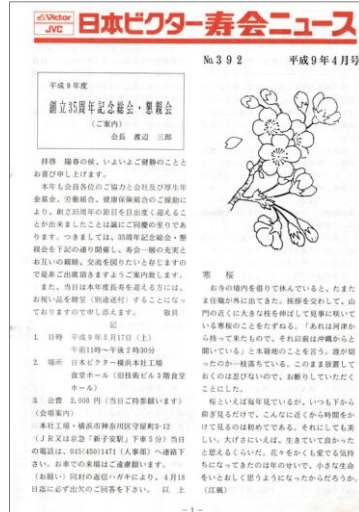
●五つの敬称

～ 5通りの敬称で呼ばれた。①閣下【海軍大将】②院長【学習院長】③大使【駐米大使】④社長【日本ビクター社長】⑤先生【参議院議員】（和歌山参議院議員欠員に松下相談役の勧めで出馬当選）

<特集> 寿会 60 周年記念 ④ 寿会ニュース変遷 -2

1997(平 9)年 4 月から A4 版! タイトルは ビクターオレンジ、フォントも社名ロゴと同一
 文字サイズは 大きく読みやすい 12P、横書き、2 段組に ※平 24 年から横 1 行に
 発行回数は、これまでの毎月から 1999(平 11)年 5 月以降、隔月(年 6 回)発行に!

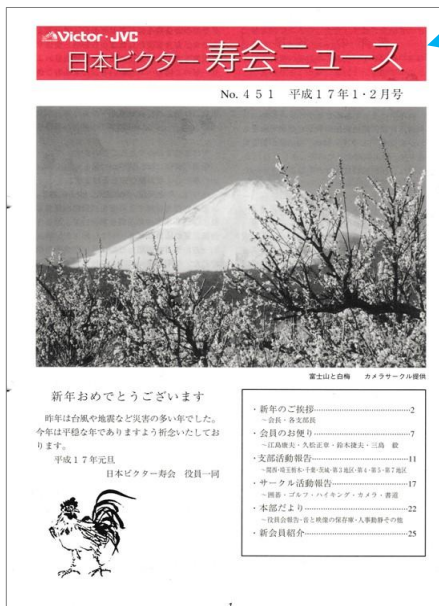
●初期は B5 版でタイプ文字も小さかったが
 153 号以降 (ロゴマーク入り左から 2 番目)
 文字が大きくなり読みやすくなりました。▼



■no.122 (昭 49)~152(52)
 ・タイプ→写植、縦書き
 ・毎月、4~6 ページ

■no.153 (昭 52)~391(平 9)
 ・写植、オフセット、縦書き
 ・毎月、4~6 ページ

■no.392 (平 9)~487(平 23)
 ・写植、オフセット ・A4 版、横書き
 ・毎月、16 ページ基本、20~30 ページ



■no.488 (平 23)
 ~ 現在 NO.533 (令 4)
 ・オフセット→オンデマンド
 ・16 ページ基本、(max40 あり)
 ・季刊(春・夏・秋・冬、年 4 回)
 ・2014 年支部主導移行に伴い
 電子版配信開始、冊子版は各
 支部で郵送会員宛発送

●コスト削減で年 6 回→季刊年 4
 回発行となりましたが情報量維
 持のため、レイアウトの工夫な
 どコンパクト編集で対応。▼

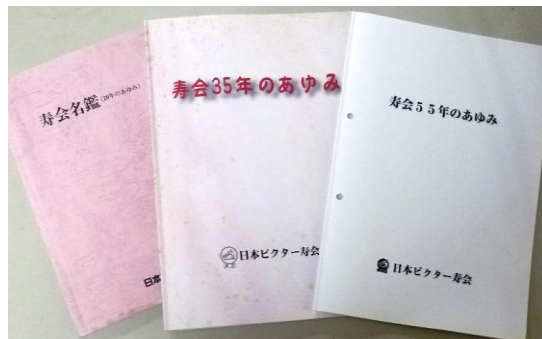
▲NO.451(平 17)から帯タイトルに
 ●493 号(平 24)から 2 段組→
 横 1 段組(右中央)となり、文字
 も MS 明朝 10.5P で小さくなり
 ました。現在、レイアウトを
 含め文字サイズ、フォント等
 検討中です。今後はページ数
 制約の中で読みやすい紙面づ
 くりを目指していきます。



<特集> 寿会 60 周年記念 ⑤ 寿会ヒストリー -1

寿会 60 年の歩みを振り返って、主要な出来事をピックアップしてビジュアル的な年表スタイルでまとめました。詳細な資料やデータなど時系列のまとめは次号で図表やグラフなどで掲載予定です

今回の「寿会ヒストリー」のまとめで主として参考にした資料は右写真の 3 つの記念誌ですが、他に 45 周年作成会員名簿もあります。他の冊子や資料などをお持ちの方はご連絡ください。(連絡先 10 ページ参照)



過去の節目に発行された記念誌(左から 20 年、35 年、55 年の各あゆみ、※知人より借用含む)

- ①20 年のあゆみ (寿会名鑑) : 昭 57. 11. 20 発行
 - ・会則、会員 368 名の名簿、顔写真など。会社役員も掲載。
- ②35 年のあゆみ : 平 9. 6. 30 発行
 - ・サークル活動、主要な出来事、歴代役員名簿など。
- ③55 年のあゆみ : 平 29. 11. 22 発行
 - ・会長、会員数、主要行事、組織(会費、会則、寿会ニュース) 本部サークル活動、支部活動、会社の動きなど。

年度	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991		
	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48	昭49	昭50	昭51	昭52	昭53	昭54	昭55	昭56	昭57	昭58	昭59	昭60	昭61	昭62	昭63	平1	平2	平3		
会長	伊奈 文夫					西森 源次郎										菊池 富士雄					河越 信義											
会員	64	80	95	108	113	127	135	145	157	175	195	215	230	245	255	265	280	300	320	340	270	400	430	480	500	550	588	613	651	683		
本部	●																															
支部	●																															
会社	●																															
	11/22 創立総会、日本ビクター寿会発足 年会費@100 円、後に会則で@300 円																	年会費@1000 円 →昭 58 改訂@2000 円										新子安に寿会クラブ開設 終身会費 30000 円				

●総会

毎年 4~5 月に定期総会を開催し、平成 19 年まで多数の会員(最高 370 名)が参加。その後は代議員会(支部単位代表参加)を経て、平成 24 年から現在の支部長会が決議機関となりました。

【写真】平成 7 年 5 月、33 周年記念総会を本社・食堂ホールで開催



●懇親旅行

発足以降は工場、保養所、ホテル等で懇親会を開催。昭和 62 年から秋季親睦旅行スタート。毎回多数の参加者で各地の観光地へ向けてバス旅行を実施していました。

【写真】平成 6 年 湯河原温泉・ホテル東横、127 名参加



<特集> 寿会 60 周年記念

⑥ 寿会ヒストリー -2

●本部サークル活動（今の京浜地区サークル）

会員 50 名以上も多数ありましたが、現在は解散したサークルもあり。



囲碁（昭 59.年 4 月～）



ゴルフ（昭 59 年 5 月～）



ハイキング（昭 59 年 12 月～）



ゲートボール（昭 61 年 7 月～）



麻雀（平 1 年 4 月～）



カメラ（平 1 年 6 月～）

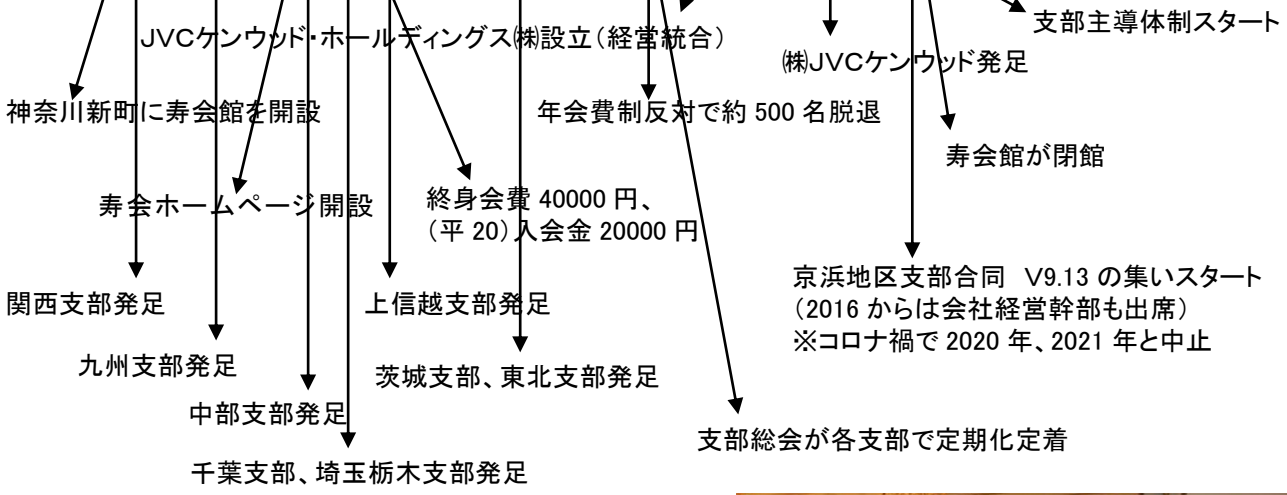


茶道（平 2 年 9 月～）



書道（平 8 年 4 月～）

1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	
平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20	平21	平22	平23	平24	平25	平26	平27	平28	平29	平30	令1	令2	令3	令4	
河越	信義	及川	邦雄	渡辺	三郎	大角	基生	今泉	正義	高橋	廣	関	毅	岩崎	陽三	市川	光男														
716	785	900	1046	1122	1238	1340	1490	1620	1790	1865	1972	2100	2175	2224	2257	1780	1711	1613	1534	1456	1386	1378	1327	1260	1216	1151	1099	1036	1000(見込)		
本部		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●	
支部		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●	
会社		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●	



活発な支部活動に取り組んでいる千葉支部では 2019 年 5 月 12 日、支部設立 20 周年の節目として記念総会を盛大に開催 (千葉支部恒例のビクター行進曲・社歌の斉唱で開会)

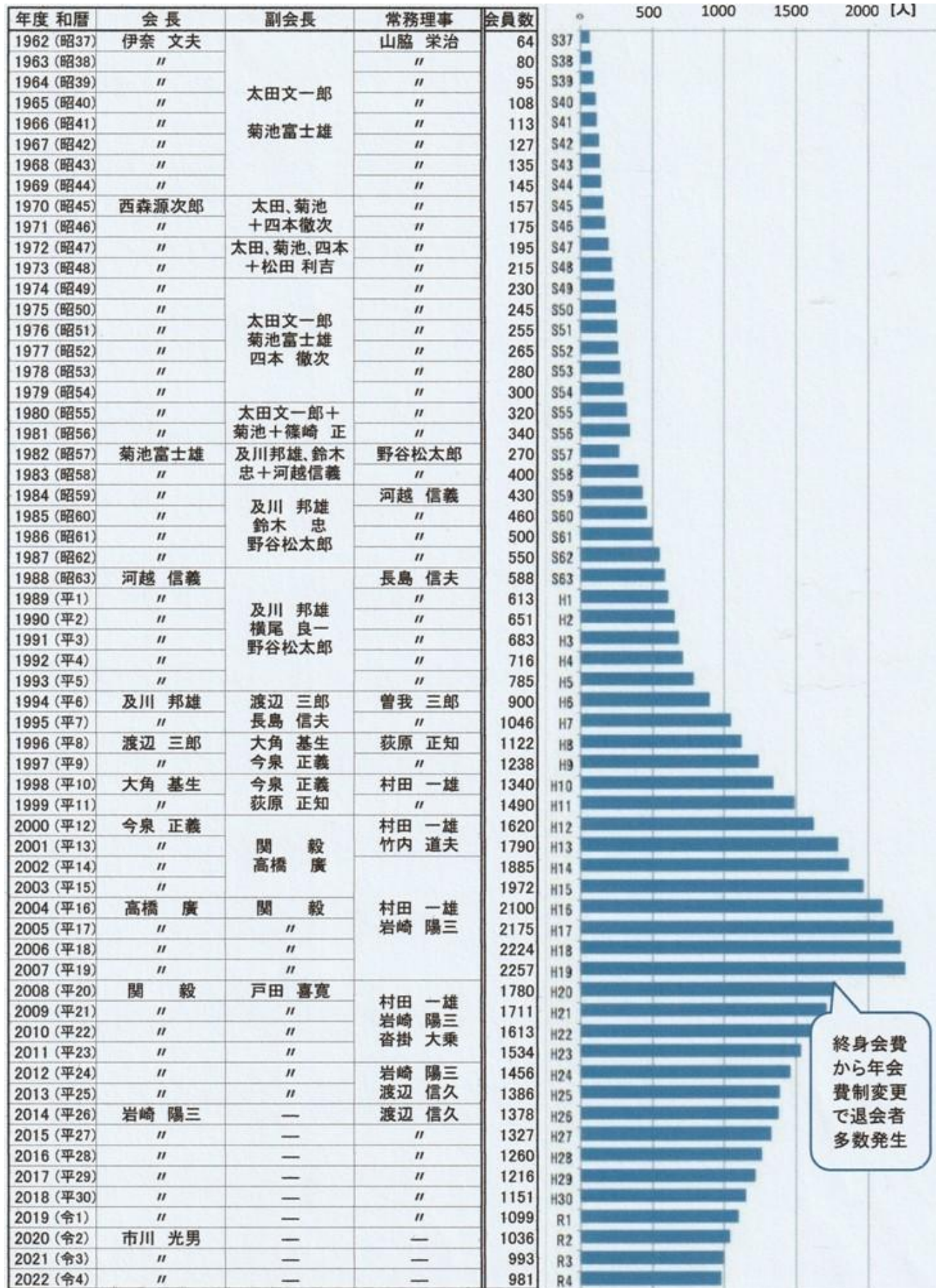


2013 年スタートの「V9.13 の集い(正式名称; 懐かしきV9.13 に集う会)」は横浜西口のホテルで開催、京浜地区中心に約 100 名が参加

■ 歴代役員

(理事、監事：略)

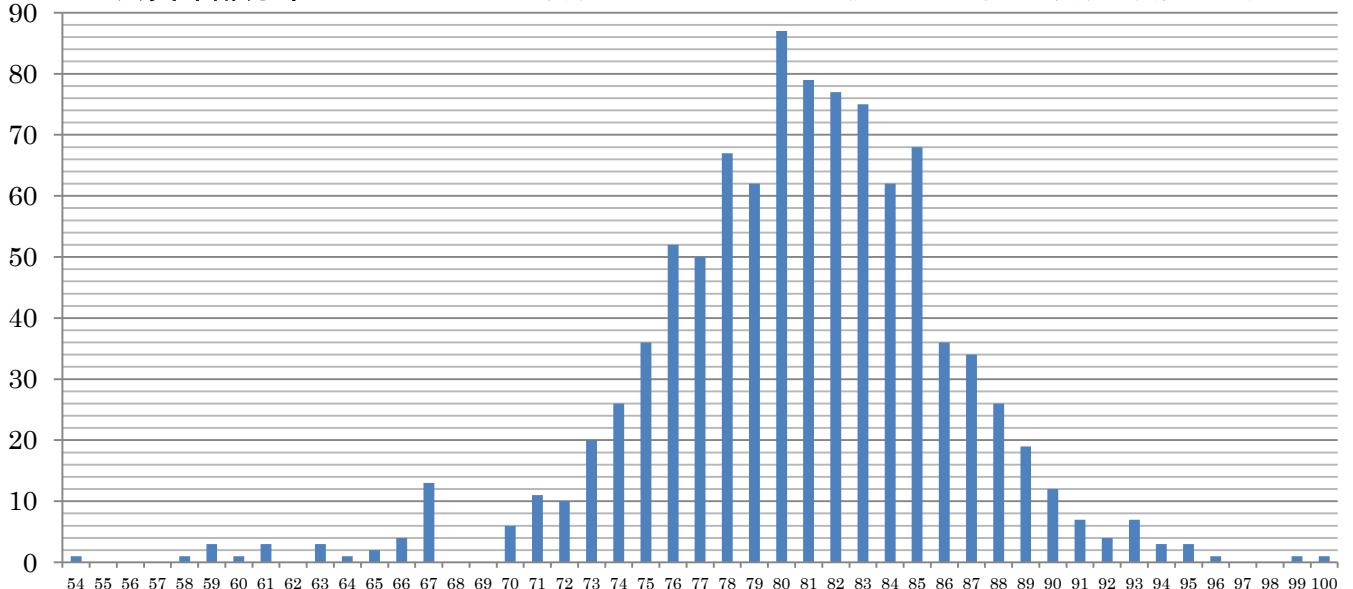
■ 会員数推移



■ 組織図



[人] ■ 会員年齢分布 (2022.5.31 現在) 会員数 988 名 平均年齢 80.6 歳 ※上記組織図会員数と時期のズレあり



前号 (4/1 発行、春季号) では「寿会ヒストリー」として、ビジュアル的な表にまとめましたが、今回はこれ迄の 60 年間のあゆみを振り返り、本部主要トピックスと支部発足の動きを年表にまとめました。(前号と一部ダブリもありますが、次ページ (会社 95 年の年表) と比較して見るために作成)

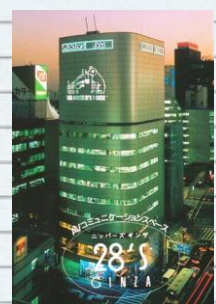
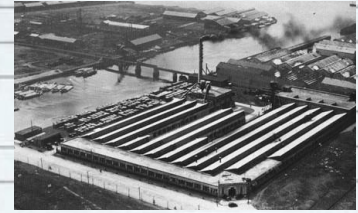
尚、この他の出来事や行事・歴代役員・会員数推移などの資料、支部組織・活動紹介等については、次号 (10/1 発行、秋季号) でまとめ、写真・グラフ・図表などでわかりやすく掲載する予定です。

■ 日本ビクター寿会・60年の歩み

年度	会長	本部の動き (主要トピックス)	支部の動き (支部発足)
1962	昭37 伊奈文夫	「日本ビクター寿会」 設立 (設立総会・大和荘)	
1963	昭38 "	「寿会ニュース」 創刊 (隔月発行、手書きガリ版)	
1965	昭40 "	「寿会ニュース」 毎月発行 (タイプ印刷)	
1970	昭45 西森源次郎		
1972	昭47 "	「寿会10年のあゆみ」 配布	 
1980	昭55 "		
1982	昭57 菊池富士雄	「寿会20年のあゆみ(寿会名鑑)」 配布	
1984	昭59 "	本部サークル(囲碁、ゴルフ、ハイキング) 発足	
1986	昭61 "	本部サークル(ゲートボール) 発足	
1988	昭63 河越信義		
1989	平元 "	本部サークル(将棋、麻雀、カメラ) 発足	
1990	平 2 "	本部サークル(茶道) 発足	地区ブロックで各地区懇談会スタート
1991	平 3 "	新子安「寿会クラブ」 開設	
1992	平 4 "	創立30周年記念総会(横浜工場)	
1994	平 6 及川邦雄		群馬支部 発足
1995	平 7 "	神奈川新町「寿会館」 開設	関西支部 発足
1996	平 8 渡辺三郎	本部サークル(書道) 発足	
1997	平 9 "	「寿会35年のあゆみ」 配布	九州支部、中四国支部 発足
1998	平10 大角基生		
1999	平11 "	「寿会ホームページ」 開設	中部支部 発足
2000	平12 今泉正義		埼玉・栃木支部、千葉支部 発足
2001	平13 "		上信越支部 発足
2002	平14 "	創立40周年記念総会(横浜本社)、「会員名簿」有料配布	
2004	平16 高橋 廣	「音と映像の保存庫」 (→2009 閉館)	茨城支部、東北支部 発足
2005	平17 "		静岡支部 発足
2007	平19 "	創立45周年記念総会(横浜本社)、「寿会45年の歩み(会員名簿)」有料配布	
2008	平20 関 毅		
2010	平22 "	「寿会館」 新町ビルへ移転(→2013 閉館)	
2011	平23 "		神奈川6支部、東京支部、多摩支部 発足
2012	平24 "	支部長会 (支部主導運営体制)	全18支部で支部総会定着
2013	平25 "	「なつかしきV9.13の集い」 スタート	
2014	平26 岩崎陽三		北海道地区 発足 (→2020.3月解散)
2017	平29 "	「寿会55年のあゆみ」 配布	
2020	令 2 市川光男	※「V9.13の集い」 コロナで2020、2021中止	
2021	令 3 "	ズーム支部長会議 (3支部単位×6回) → 2022.2月ズーム支部長会	
2022	令 4 "	日本ビクター寿会 創立60周年	

■日本ビクター 会社・95年の歩み

年度	社長	主要トピックス
1927	昭 2	ガードナー 日本ビクター蓄音機株式会社 設立
"	"	" 横浜・中村町仮工場でレコード初プレス
1930	昭 5	サマラー 横浜・新子安の本社・横浜工場 竣工
"	"	" 「日本ビクター社歌」制定、特約店向「ビクター誌」創刊
1936	昭11	" 創立10周年記念式典 (丸の内東宝会館)
1937	昭12	鮎川義介 RCAビクター所有株を日産へ譲渡
"	"	山口喜三郎 日産から東芝へ資本移動
1940	昭15	" 東京・築地スタジオ 完成
1945	昭20	伊東 禎 「日本ビクター株式会社」に商号変更
1946	昭21	橋 弘作 労働組合結成
1953	昭27	" 文化放送「S盤アワー」ビクター提供で放送開始
1953	昭28	野村吉三郎 米RCAとレコード原盤供給・技術援助契約
1955	昭30	" スローガン「文化に貢献、社会に奉仕」制定
1957	昭32	" 「社旗」制定、入江工場 完成
1958	昭33	" 東京・日本橋にビクタービル 完成
1959	昭34	" 横浜工場内に技術ビル 完成
1962	昭37	百瀬 結 大和市にレコード工場、翌年 ステレオ工場 完成
1964	昭39	" 八王子研修センター、翌年 八王子工場 完成
1966	昭41	" レコードと生演奏すり替え実験成功、岩井工場 完成
1967	昭42	" 横浜第5工場 完成、創立40周年記念式典
1969	昭44	" 青山スタジオ、前橋工場(当初カラーTV)、郡山工場 完成
1970	昭45	北野善郎 4チャンネルステレオ CD-4発表
1971	昭46	" 音響技術研究所(音研)、水戸工場 完成、本社部門日本橋ビルに移転
1972	昭47	" ビクター音楽産業(株) 設立
1973	昭48	松野幸吉 高田馬場ビクターミュージックプラザ (VMP) 開設
1976	昭51	" 家庭用VHS方式ビデオ発表 (HR-3300)
1977	昭52	" 新ロゴマーク導入、創立50周年記念式典、伊勢崎工場 完成
1979	昭54	宍道一郎 東京ビデオフェスティバル開催
1980	昭55	" サッカーWカップオフィシャルスポンサー権利取得
1981	昭56	" 藤枝工場、小山工場(小山電子) 完成
1983	昭58	" 横須賀工場、宇都宮工場(昭60) 完成
1986	昭61	垣木邦夫 経営新体制 (V150推進など)、高画質S-VHS発表
1987	昭62	" 久里浜技術センター 完成、創立60周年記念式典
1988	昭63	" 新橋ビル「28'Sギンザ」オープン、(平元年)本郷ビル完成
1990	平 2	坊上卓郎 お客様相談センター(社長直轄)新設
1993	平 5	" ビクターエンタテインメント設立、ハイビジョンW-VHS発表
1994	平 6	守随武雄 本社、日本橋から横浜工場内へ移転
1997	平 9	" 70周年記念事業(V70イベント、展示会、映画他)
1997	平 9	" オーディオ事業部 大和から前橋集結
1999	平11	" デジタル放送対応D-VHS発売、テイチク ビクターグループ傘下に
2001	平13	寺田雅彦
2002	平14	" 映画「陽はまた昇る」公開
2007	平19	佐藤国彦
2008	平20	" ビクター、ケンウッドと経営統合 → ビクター、ケンウッドは共同持株会社設立
2009	平21	吉田秀俊 (河原会長、佐藤社長)
2010	平22	伊東裕太 持株会社、ビクター、ケンウッドは1社に体制統合 (10株=1株)
2011	平23	持株会社 (ホールディングス) 商号変更 → ㈱JVCケンウッド発足
2012	平24	<独立法人としての日本ビクターは幕を下ろす> (河原会長・社長)
2014	平26	(辻社長)
2020	令 2	(江口社長)
2022	令 4	日本ビクター創立95周年 ※日本ビクター存続として起算



会社95年の歩み (商品・技術開発)

年 度	主要な商品発売及び技術開発発表	
1927 昭2	ビクトロラ(蓄音機)I-90、エレクトロラ(ラジオ付蓄音機)RE-41輸入発売	
1928 昭3	国内プレスレコード洋楽、邦楽(鉾をおさめて、波浮の港等)発売	
1929 昭4	日本ビクター設計の国産卓上型ビクトロラ(蓄音機)JI-91発売	
1930 昭5	国産卓上型ビクトロラ(蓄音機)JI-80発売(音のビクターをPR)	JI-80
1931 昭6	国産ラジオ付蓄音機(JRE-31、同41)発売	
1932 昭7	長時間レコード(LP:運命、他)発売	
1933 昭8	LP、SP用2スピード電蓄RE-42発売	
1934 昭9	オルソフォニック(ヘッドシェル振動板)ビクトロラJT-71発売	
1935 昭10	国産ラジオ第1号JR-120(スーパーヘテロダイン)発売	
1936 昭11	卓上型電蓄JE-16発売(10周年記念商品)	
1937 昭12	ラジオ付電蓄RE-48(ヨンパチ)、ラジオJR-105、R-101等発売	
1938 昭13	劇場用トーキー装置PGP-116発売	
1939 昭14	テレビジョン(反射型)受像機完成展示会(高島屋)	
1940 昭15	テレビジョン発売(NHK,陸軍納入)、テレビジョン展覧会(三越)	
1941 昭16	軍需品(拡声装置、レーダー、ソナー等)生産、ラジオ6R-75発売	
1942 昭17	↑	
1943 昭18	戦時体制下は軍需工場として生産	
1944 昭19	横浜工場は焼失(昭20)のため終戦後、戸塚工場で生産再開	
1945 昭20	↓ (戸塚工場:日本工学より購入)	
1946 昭21	ラジオ(5球オールウェーブ)5AW-1発売	
1947 昭22	ラジオ(5球スーパー)5RS-1発売	
1948 昭23	ラジオ4RS-1、ラジオ付電蓄SRE-11発売	
1949 昭24	RCAビクターでEPLレコード発表	
1950 昭25	ポータブル電蓄PE-1発売	
1951 昭26	ラジオ付電蓄SRE-17発売、テレビジョン開発再開	PE-1
1952 昭27	小型電蓄E-200発売	
1953 昭28	LPLレコード国産(録音~プレス)、テレビ第1号14TV-201発売	
1954 昭29	EPLレコード国産第1号、テープレコーダー、カラーテレビ開発	
1955 昭30	トランジスターラジオ開発、帯電防止レコード開発	
1956 昭31	45-45方式ステレオ開発発表、テープレコーダーTR-100発売	
1957 昭32	トランジスターラジオTS-600、35mm映写機V-1000発売	
1958 昭33	セパレートステレオSTL-1、電子オルガン完成、VTR開発	STL-1
1959 昭34	3スピードレコーダーTR-501発売、パーフェクトピックアップ開発	
1960 昭35	世界初エコー装置開発、エコーマシン発売、	
1961 昭36	3D方式ステレオSTL-37、トランジスターテレビ発売	
1962 昭37	大型投射装置アイトホール、薄型傾斜ステレオSTL-300発売	
1963 昭38	世界最小VTR(KV-200)発表	
1964 昭39	モデルチェンジしないステレオSTL-661発売(大ヒット!)	
1965 昭40	BGM用カートリッジテープレコーダー、4TRステレオテープ発売	
1966 昭41	業界初IC採用カラーテレビ25CT-1007発売	
1967 昭42	無指向性球形スピーカーGB-1、SEAシステムSEA-200発売	
1968 昭43	SEAステレオSSL-55発売、カラーTV(C-5018)世界の一流品選出	
1969 昭44	世界初4chシステム発表、業界初8トラックデッキCHR-250発売	
1970 昭45	独立4chCD-4システム(ディモジュレーター、カートリッジ)発表	
1971 昭46	世界初CD-4レコード、ディモジュCD4-1、シバタ針等発売	
1972 昭47	スピーカーSX-3、ANRS搭載カセットデッキCCR-667発売	SX-3
1973 昭48	EEオート純白カラーTV、ユニット家具(インターメーベル)発売	
1974 昭49	SXスピーカー第2弾SX-7、タテ型カセットデッキKD-950発売	
1975 昭50	生録デッキKD-3、ラジカセRC-505発売、カラーTV C-5018高評価	

年度	主要な商品発売・技術開発発表など	
1976 昭51	家庭用VHSビデオHR-3300、ビクトロンEO-G3発売	
1977 昭52	バイホニックラジカセRC-828、倍速ビデオHR-3600発売	
1978 昭53	ビデオディスクVHD/AHD開発、K2インターフェース発表	
1979 昭54	メタルカセットデッキKD-A6、メタルラジカセRC-M70発売	
1980 昭55	スピーカーZero-5Fine、ポータブルコンボPC-5発売	
1981 昭56	メタルテープ発売、世界初PCMカセット、DATデッキ発表	
1982 昭57	VHS-C規格発表、HR-C3、CDプレーヤーXL-V1発売	
1983 昭58	VHDディスクプレーヤーHD-7500発売(ソフト200タイトル)	
1984 昭59	CムービーGR-C1、国内生産初CD30タイトル発売	
1985 昭60	世界最小ピコカセット開発、VHD/AHDハイビジョン化等開発	
1986 昭61	CムービーGR-C7、第3ネットワークTV(AV-M370)発売	
1987 昭62	高画質S-VHS開発、HR-S7000、DATデッキXD-Z1100発売	
1988 昭63	S-VHSビデオHR-S10000発売、	
1989 平1	高音質CDソフト・XRCDディスク発売	
1990 平2	VHSコンパチビデオHR-SC1000、CDサイズコンボUX-1発売	
1991 平3	フラット画面AV-29X1、デジタル音声S-VHSデッキHR-Z1発売	
1992 平4	マルチワイドTV(PANORAMA)AV-28WX2発売	
1993 平5	MDレコーダーXM-D1、W-VHSハイビジョンHR-W1発売	
1994 平6	コンパクトコンボSS-F1、SムービーGR-EX7発売	
1995 平7	デジタルDV規格発表(6社)、ポケットムービーGR-DV1発売	
1996 平8	ネットワークハイビジョンTV(HV-32Z1)、PHS・電話機発売	
1997 平9	プロジェクターDLA-G10、DVDプレーヤーXV-1000発売	
1998 平10	大型CDラジカセ(ドラムカン)RV-X70発売	
1999 平11	デジタル放送対応VTR・D-VHS(HM-DH35000)発売	
2000 平12	カラフルイルミ搭載コンボLipLap、CDラジカセClavia発売	
2001 平13	ポータブルオーディオMDプレーヤーalneo発売	
2002 平14	ハドソンと共同でCD-ROMコピー防止技術(ROOT)開発	
2003 平15	ウッドコーンスピーカー搭載コンボ EX-A1発売	
2004 平16	HD-ILA(高解像度4K2K、8K4K)開発発表(NHKと共同開発)	
2005 平17	デジタルムービー(EverioR)、高画質GENESSA搭載液晶TV発売	
2006 平18	netK2インターフェース技術開発(Net対応ウッドコーンコンボ発売)	
2007 平19	プロジェクターDLA-HD1、残像低減・バックライトLED液晶TV発売	
2008 平20	ウッドコーンコンボ EX-AR3、ウッドコーン2ウェイSX-WD500発売	
2009 平21	マグネシウム振動版搭載スピーカーSX-M3発売	
2010 平22	ネットワーク対応新デザインコンボ(ウッドコーン)EX-S1,EX-N5	
2011 平23	<JVCケンウッド> ※JVC(ヘッドホン、ウッドコーン等)/KENWOOD(カー中心)/Victor(2017~) 3ブランド展開	
2012 平24	ミニヘッドホン(ウッドドーム、ウッドハウジング)HA-FX700発売	
2013 平25	ウッドコーンシステム限定モデル EX-A300ダイレクト販売	
2014 平26	ヘッドホンアンプSU-AX7、ウッドコーンハイレゾHRシリーズ発売	
2015 平27	木の振動板ヘッドホンHA-SW01/02発売(WOOD01/02)	
2016 平28	ウッドコーンコンパクト EX-NW1発売(机上用小型SP)	
2017 平29	ヘッドホンウッドシリーズ最上モデルHA-FW10000発売	
2018 平30	ハイビジョンメモリームービーGZ-RX680(EverioR)発売	
2019 令1	ウッドコーン15周年記念ハイエンドEX-HR99(K2搭載)	
2020 令2	一体型コンボ(CD/Bluetooth/USB/ラジオ)EX-D6発売	
2021 令3	ポータブル電源(各種)、完全ワイヤレスヘッドホン各種発売	
2022 令4	完全ワイヤレスイヤホン(ディズニー共同企画)など各種発売	

※2011年以降の商品はJVCブランド中心。2017年Victorブランド復活により、2017年以降はJVC、Victorの両方あり。

本特集は寿会 60 年の年表・資料などをまとめると共に、ビクター95 周年(会社存続として)の歩みをまとめてきましたが、スペースの関係で主要商品や国内中心の内容となり、残念ながら触れることが出来なかった海外の活動や取り扱った多くの商品、様々なエポックなどが掲載できなかつたことをご容赦ください。

しかし、創業時から戦後の厳しい時代に頑張ってこられた諸先輩方の足跡や苦労を振り返ると、単にビクターの歴史というより日本の音楽産業として多大な貢献をしてきたこと、その後の昭和 30~40 年代は広告宣伝や販促活動などで輝かしい実績を上げてきたこと、さらに VHS ビデオのプロモーション強化の販促イベントの成果等。当初の PR 本部という部門の幅広い活動、先見性ある行動により販売拡大、シェアアップに貢献してきたことはぜひ触れておくべきと考えました。最後の特集企画となり限られた紙面ですが、それら活動の一端を紹介し各々ポイントをまとめました。

【写真右上】以下のまとめに参考にした本・資料の一部(諸先輩が自ら執筆)



■ビクターはレコード販売で日本の音楽産業を牽引

- ・創業当初の日本ビクターは電蓄の販売が主力でしたが、同時にレコード販売が電蓄販売をバックアップ。一方、海外レーベル契約も進んでレコードプレス体制も増強、邦楽や歌謡曲も多数のヒット曲が生まれました。
- ・戦前、戦後を通じて日本の音楽業界ではビクターとコロムビアの 2 社がヒット曲を独占し、専属作曲家も含めて日本の音楽産業を牽引しました。



■PR 本部が一体となり、強い情熱と信念をもって日夜努力

- ・そのレコード販売の強力推進部門が当時の PR 本部で、有能なスタッフの熱意と行動力で素晴らしい成果と実績を残されました。数多くの実績から特筆的な事例はラジオ文化放送の人気番組「S 盤アワー」。ビクター単独提供番組ですが、なんとパーソナリティーにビクター女性社員を指名!
- ・これは一例で感心したことは販促や宣伝広告など専門会社に任せるのが通常パターン。しかし当時の PR 本部は社内スタッフで知恵を絞り、他に頼らずユニークな企画を作るという強い信念で、日夜努力を続けたことに大きな感銘を受けました。これが誇るべき実績の所以だと確信しました。



■思い出に残る広告宣伝活動より



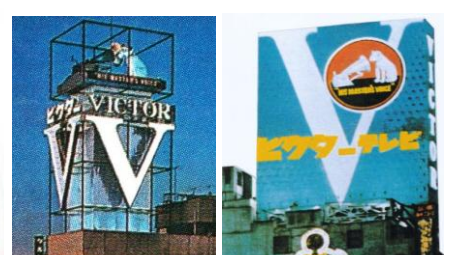
▲(昭 37)1964 オリンピック前の 1962 年、新聞全面広告でビクター商品で協賛金を提案。



▲(昭 63)ニッパーズ銀座オープン。屋上壁面はレーザー光線でニッパーマークを演出。レーザー光線は対面の博品館ビルから投射。



▲高田馬場「BIG BOX」に(昭 49)VMP(ビクターミュージックプラザ)開設。西武との良好関係で賃貸料優遇。ラジオ TV 局タイアップのイベント企画で好評。(右下)



(左)大阪・京都・名古屋のネオン塔(昭 34)
(右)銀座・教文館の屋上ネオン塔(昭 33)



■FIFA ワールドカップ・サッカー

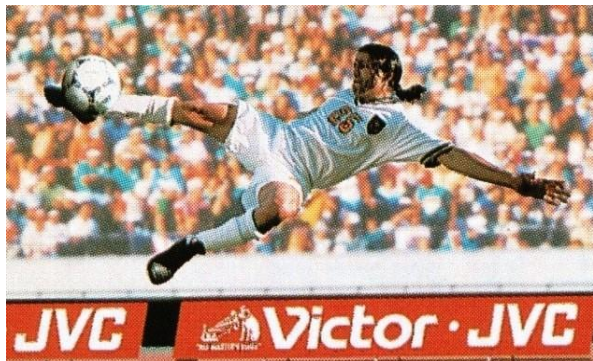
・世界中を熱狂させるサッカー・ワールドカップオフィシャルスポンサーにビクターは 1982 年から毎年協賛しており、欧州選手権、U17選手権など世界レベルの FIFA サッカー大会をサポート。これら世界的な強カスポンサー活動によって VHS ビデオの欧州戦略大成功や JVC ブランドの絶対的な信頼を得ることが出来ました。しかし 2000 年代以降の業績悪化により、2006 年(ドイツ大会)で協賛は終了しました。

■JVC ジャズフェスティバル

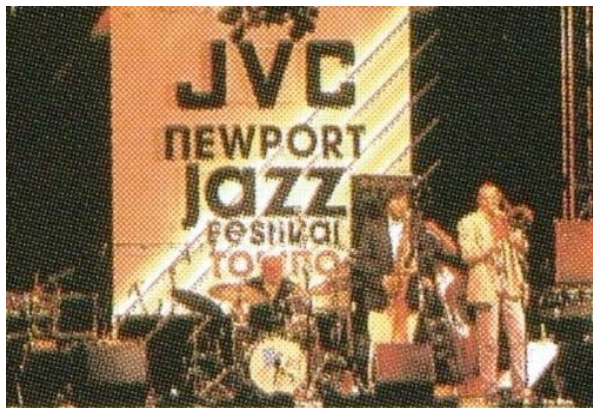
・世界のジャズビッグアーティストが参加する伝統的ジャズイベントの「ニューポート・ジャズフェスティバル」(米国ロードアイランド州)の冠スポンサーとして、JVC は 1984 年以來毎年 8 月から 10 月にかけて、世界の主要 12 都市で盛大なイベントを開催。米国などではオーディオ製品の販売拡大と共に、JVC ブランド・イメージアップに大きく貢献しました。ワールドカップ同様、2006 年冠スポンサーを終了しました。
※【冠スポンサー】スポーツ・各種イベント・TV番組など単独資金提供し、企業名や商品名を独占的に大きくアピールできるもの。

■東京ビデオフェスティバル

・VHS 発売と共にビデオムービーを世界中に普及させ、ビデオの新しい楽しみ方や感動を広げようという目的でビクターが 1978 年スタートさせた「東京ビデオフェスティバル」。世界の各国と地域からプロ・アマチュアを問わず、様々な分野のビデオ作品を募集、優秀作品を選ぶというコンテストで長い歴史を通じて豊かなビデオ表現による映像文化の創造や人々の交流・出会いの場を提供してきました。その後上記イベント(W 杯、ジャズフェス)同様 2010 年後援終了。



▲最近ディスプレイボードに変わった周囲の看板ですが、昔はビクター・JVC 連合マークを世界中にアピール！



■ロゴマークの変遷

・海外の「JVC」というブランド名は日本ビクター株式会社を直訳の Japan Victor Company から来ており、犬マークが商標権で使えない市場で「NIVICO」を使用。以前は J と C を小さく V を大きくしていましたが、1968 年以降、JVC の下に NIVICO を小さく入れ、1977 年より大きく JVC に統一。
・国内の犬マークも丸、四角など変遷して犬 Victor 横型になり、1977 年新ロゴ(犬 Victor)に変更。連合マーク(縦型、横型)も導入されました。



【注】2022 年 4 月 1 日より、従来のビクターマークをリファイン(左上)。ヘッドホンや小型デバイスでも鮮明に見えるように犬マーク意匠の若干変更と Victor ロゴ書体を細身にしました。(前号紹介済)



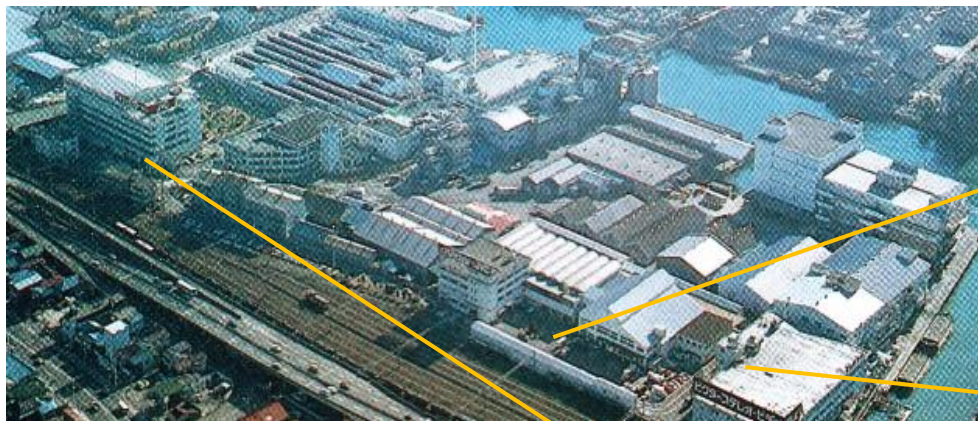
▲「60 年史」より転用のため下地と横線削除できず。

<特集> 寿会 60 周年記念

⑮事業所の今昔 (京浜地区 I)

横浜・入江工場

▼【昔】ビクター創業の地でレコードプレス、電蓄、ラジオ等生産。後に技術ビル、第 5 工場完成。入江のビデオ技術で VHS 開発以降、VHS ビデオの主力生産基地。平成 6 年本社移転。



【今】JVC ケンウッド本社 (元 テクノウイング)



5 頁で紹介した入江エリアの再開発が進行中。2024 年夏完成の新たな価値創造拠点(仮称)「Value Creation Square」



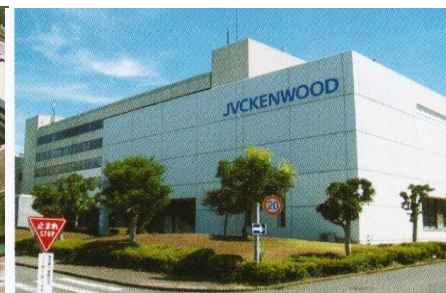
【昔】第 1 工場ファサード 第 5 工場(5 階は体育館) 【今】第 5 工場跡: 佐川急便物流センター(キタムラ、KEL、macnica など)

横須賀工場

上【昔】ビデオカメラ等生産
下【今】横須賀事業所として (JKCM) ディスク生産など

久里浜技術センター

左【昔】研究開発拠点(今も継続)
右【今】久里浜事業所と名称変更



大和工場

上【昔】東洋ーステレオ工場、下中央【昔】レコードプレス工場 下右【今】ショッピングセンター(りんかんモール)



林間工場

上【昔】ディスク事業部
下【今】大型マンション



<特集> 寿会 60 周年記念

⑩事業所の今昔 (京浜地区II)

大倉山工場

左【昔】ラ録事業部～(C&D)部品・基板生産
右【今】工場跡周辺の拡張で大型マンション



上星川工場

上【昔】プリント基板生産
下【今】再開発マンション



鶴ヶ峰工場

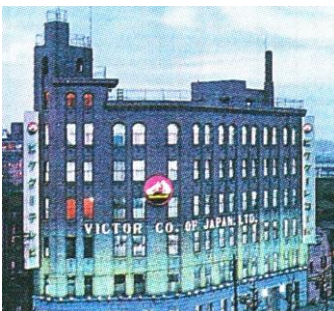
左【昔】生技の精密機械工場から精密部品生産
右【今】周辺地区再開発により大型マンション



●他に京浜地区には海老名(VDS)や鶴見(カナリヤ電子)などの事業所がありました。現状の調査資料や情報収集が困難のため省略しました。

本社(日本橋)

●本社と本郷ビルは西郷撮影。
※本社脇「うなぎ大江戸」健在!



▲(昭33) ビクタービル完成

▲【昔】(昭46) 日本橋本町に本社移転

▲【今】建物あり(東京建物第3室町ビル)

(営本) 本郷ビル

左【昔】(平成元年)本郷ビル完成
右【今】建物あり(グローリー首都圏支社)

(特本) 浜町ビル

【昔】(特本)1～9階すべて賃貸
【今】建物あり(田辺浜町ビル)



●<事業所今昔>は国内中心の掲載としましたが、海外各地の現地法人(販売会社・生産工場)の今昔は紙面スペースや情報収集の関係で掲載出来ませんでしたことをご了解下さい。

■ 事業所の今昔

① 水戸工場・銚田工場他 (記録メディア商品の開発生産及びビデオ・オーディオソフトダビング生産拠点)

※西郷の資料を活用



【今】銚田工場→三衆物産 (鉄屑処理)



【昔】昭 61 年元皇太子殿下が銚田工場視察。当時 VMT 星野社長が説明



【昔】水戸成型▲ 【今】ウルノ商事▼



【昔】水戸工場▲

【今】水戸工場・VMT 跡地→ショッピングセンター▼



【今】駐車場跡 (ベンツ、創価学会会館)



② 前橋工場・伊勢崎工場等 (オーディオ商品の開発生産、プロビデオ商品の生産拠点)

※米本支部長の協力で情報収集



【昔】前橋工場事務棟▲ 【今】ダイワハウス・福山通運・三菱食品 3 社



【昔】前橋工場 (上) (下) 伊勢崎工場



【今】伊勢崎工場跡地→カワチ薬品



(右) 伊勢崎電子跡地→株中島



③ 岩井工場

■カラーテレビ・ビデオカメラ・TV 部品 DY (偏向ヨーク)・VHD プレーヤー等生産

■写真協力: 井上純一さん、清水邦昭さん



▲【昔】岩井工場 ▼【今】工場跡地に大ショッピングセンター(ヨークタウン坂東)



駐車場内に正門のプレート設置



(左)【昔】坂東市馬立の日本タイプライター工場跡の第2工場 (右)【今】周辺土地を拡張、(株)キャノンエレクトロニクス工業の巨大な工場



④ 小山工場 (栃木県)

■TV 部品(偏向ヨーク)生産

※写真情報協力: 宮田宏美さん

(左)【昔】栃木県小山市の小山工場 (右)【今】建物はそのまま利用「(株)キタ AC(ゴルフクラブ製造)」



⑤ 河東電子 (福島県)

■プリント基板、DY 生産

※写真・資料データ・情報協力: 照井広安さん、櫻井不二夫さん



(左)【今】会津若松: 農機具駐車場 (右)【今】猪苗代第1工場: 更地

(左)【昔】会津若松市の本社工場 (右)【昔】猪苗代町の猪苗代工場 ※写真は第1工場、川桁駅近く第2工場

⑥ 宇都宮工場

■ハードディスクサブ
スクレート(アルミ板
塗布技術の開発)

■写真: 西郷が撮影

(左)【昔】 研究開発工場
(右)【今】 カルビー(株)
R&D センター



⑦ 郡山工場

■当初: 小型スピー
カー→VHS-C テープ
→VTR ヘッド生産

■写真・情報提供:
松崎梯次郎さん

(上)【昔】初期工場が水害被
害後、新設された工場
(下)【今】(左から順に)
機械解体工場、羽田工業、コ
マツレンタル、宗教団体駐車
場 ※北側の旧松下電工は
操業中。西側奥にあったビク
ター野球場は現存。



⑧ 八王子工場

■特機事業部: 業務
用システム他、生産

■八王子研修センタ
ー(人材開発センター)

■写真・情報提供:
浅見憲一さん



(上)【昔】左: 八王子工場
右: 八王子研修センター
(下)【今】左: 正門側から
見たところ。右: 交差点か
ら見たところ。八研と工場
含む全敷地に倉庫が立ち
並び、大規模物流センタ
ーとなっている。



⑨ 藤枝工場

■モータ事業部:
各種小型モータ生産

■写真・情報提供:
袋井隆司さん

2008 年日本産業パートナ
ーズのファンドへ譲渡。
2012 年に韓国サムスンに
売却、2015 年にタイ工場
だけ残し、藤枝工場閉鎖。



(左)【昔】工場の全景 (右)【今】中部抵抗器(株) (守衛所は無く外観も変化している)

<特集> 寿会 60 周年記念

② 事業所の今昔 (国内営業 I)

■ 事業所建物の今昔Ⅲは国内営業拠点(営本中心)で、【昔】の独社(後に支店)の写真は「ビクター60 年史」から転用し、【今】の写真はグーグルストリートビュー及び一部は当該支部の現地撮影の協力によるものです。

北海道ビクター (北海道支店)

●写真協力:
小林和昭さん



【昔】北海道ビクター(北二条東) 【今】リッチモンドホテル(北三条西)

奥羽ビクター (奥羽支店)

※後に地域統合で
東北ビクターと合併



【昔】奥羽ビクター(青森市大字浦町) 【今】更地(駐車場)

東北ビクター (東北支店)



【昔】東北ビクター(仙台市青葉区) 【今】大型スポーツ用品店

信越ビクター (信越支店)



【昔】信越ビクター(新潟市明石) 【今】レンタカー店駐車場

関東ビクター (関東支店)



【昔】関東ビクター(大宮市上小町) 【今】福祉介護施設(ひばり)

千葉ビクター (東関東支店)



【昔】千葉ビクター(千葉市美浜区) 【今】千葉トヨペット幸町店

東都ビクター・東京東ビクター (東京支店)



【昔】東都・東京東V(文京区本郷) 【今】本郷ビルあり(ケローリー支社)

東京西ビクター (西東京支店)

※支店は八王子
市大和田に移転



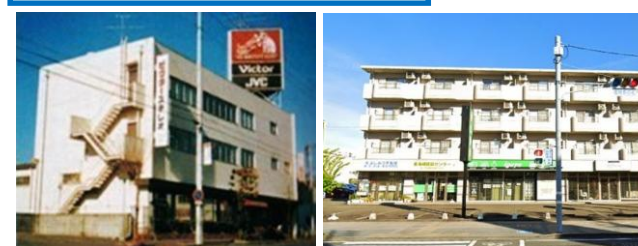
【昔】東京西V(大田区) 【今】マンション※支店【今】駐車場

神奈川ビクター (神奈川支店)



【昔】神奈川V(横浜市中区) 【今】駐車場(関内ほうさい殿)

静岡ビクター (静岡支店)



【昔】静岡ビクター(静岡市曲金) 【今】マンション(テナント)

東海ビクター (東海支店)



【昔】東海ビクター(名古屋市名東区) 【今】ドラッグストア

大坂ビクター・近畿ビクター (関西支店)



【昔】大阪・近畿ビクター(大阪市天王寺区) 【今】創価学会
●写真協力: 関西支部・野澤 隆さん 関西記念会館

神戸ビクター (神戸支店)



【昔】神戸ビクター(神戸市中央区) 【今】兵庫県医療信用組合
●写真協力: 関西支部・野澤 隆さん

四国ビクター (四国支店)



【昔】四国ビクター(高松市錦町) 【今】店の駐車場

山陰ビクター販売



【昔】山陰ビクター(松江市西川津町) 【今】団地(アパート)

北陸ビクター (北陸支店)



【昔】北陸ビクター(金沢市長土塚) 【今】店の駐車場

京滋ビクター (京滋支店)



【昔】京滋ビクター(京都市下京区) 【今】マンション・コンビニ
※野澤さん情報: 京都市伏見区の跡地→【今】名校志向塾

中国ビクター (中国支店)

●写真協力: 中四国
支部長: 加藤洋吉さん



【昔】中国ビクター(広島市中区) 【今】大型マンション
※加藤さん情報: 前の道路は渋滞解消のため地下トンネル化

九州ビクター (九州支店)

●写真協力: 九州
支部長: 園田武幸さん



【昔】九州ビクター(福岡市博多区) 【今】マンション・駐車場 ※園田
さん情報: 今は様変わり昔を
偲ぶものはありませんでした。

沖縄ビクター販売



【昔】沖縄ビクター(宜野湾市) 【今】ネットワークシステム会社

ビクター行進曲

篠崎 正 作詞
佐伯孝夫 補作
飯田信夫 作曲
作編曲

- (1) 歓びあふれ 歌声ひびき
希望あかるく湧く朝
愛と誠の旗じるし
世界のマークかざしつつ
(繰り返し)
進めよビクター限りなく
讀えよビクター高らかに
ビクター ビクター
われらのビクター
- (2) 日輪燃えよ 雄々しき胸に
籠めよ まごころ双腕に
永遠に輝く 伝統の
技術うけ継ぎて 日に新
手を執り誓い 大和の花を
咲かす われらのゆく道は
平和文化の使徒の道
社会につくせ一すじに

日本ビクター社歌

作詞 西条八十
作曲 中山晋平

- (1) ひろき我世の 天才偉人
ここに集むる 音響の饗宴
文化の精粹 人技の誇り
(繰り返し)
ビクター ビクター
われらのビクター
- (2) 国の親善 家庭の和榮
果すわれらの 使命は樂し
時代の先鋒 世界の誇り
- (3) その名あまねき わが製品を
つくる焔ぞ われらが至誠
文化の精粹 人技の誇り
- (4) 吹けよ潮風 照らせよ朝日
永久に榮ゆる われらが工場
時代の先鋒 世界の誇り

日本ビクター株式会社従業員行動綱領

- 一、社会奉仕 私たちは、産業人としての自覚をもち、常に感謝の心をもって、文化に貢献、社会に奉仕の使命を果たすよう努力します。
- 一、信用第一 私たちは、公明正大を旨とし、常にまごころをもつてすぐれた商品を作り、正しい商道を守り、社会の信用を高めるよう努力します。
- 一、自発実行 私たちは、経営方針を正しく理解し、常に自ら求め、自ら考え、不撓不屈、すぐんで勇氣と責任をもって職務の完遂に努力します。
- 一、創造開発 私たちは、旺盛な研究心をもち、常に合理化を追求し、新しい技術の開発と絶えざる業務の改善に努力します。
- 一、自己啓発 私たちは、輝かしい世界のマークの担い手として、常に広く知識を求め、情操を養い、自らの啓発に努力します。
- 一、互譲礼節 私たちは、謙虚な心を忘れず、互いに相手を尊敬し、常に健康で明朗な職場を作るよう努力します。
- 一、大和一致 私たちは、和の心をもって一致協力し、常に総力を結集、社業の限らない発展とお互いの幸福を築くよう努力します。

寿会 60 年のあゆみ

— 日本ビクター寿会 60 周年記念 —

- ・発行日 令和 5 年 3 月 20 日
- ・発行人 市川 光 男
- ・編集人 西郷 治 男
- ・発行所 日本ビクター寿会
- ・印刷所 コトブキ印刷株式会社 (水戸市千波町)

- ・本部役員 <会長> 市川 光 男
- <理事> 前北 勝 司 (寿会 HP 担当)
- <理事> 西郷 治 男 (寿会ニュース担当)
- <理事> 櫻井 實 (会計)
- <監事> 古林 茂